

国語科における国際的学力への対応と課題

井上 雅彦

(立命館大学)

1. 現行学習指導要領に大きな影響を与えたPISA調査

PISA調査における読解力（reading literacy）とは、テキストに書かれた情報を「理解」するだけでなく、「熟考」し「評価」することまで含んでいる。また、テキストの「内容」だけでなく、構造・形式といった「表現」も評価すべき対象となる。さらに、テキストを単に読むだけでなく、テキストに基づいて自分の意見を論じることが求められている。

PISA2003調査において、日本の「読解力」の成績は8位から14位へと大きく低下した。これを「PISAショック」というのは周知の事実である。学力低下論争ともあいまって、文部科学省はその対応に躍起となり、現行学習指導要領もPISA型読解力の影響を強く受けている。文章の「内容」や「表現」について、「自分の考え」を「まとめる」という記述が随所に見られるのである。結果的に、PISA2009調査では日本の成績は8位へと向上し、PISA2012調査では4位という成績を収めることができた。

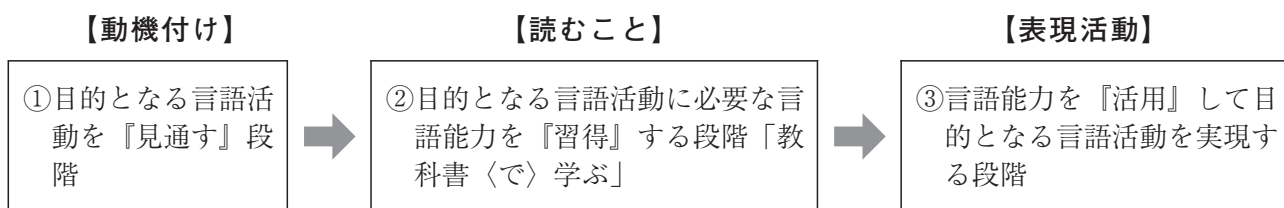
2. PISA型読解力への対応

PISA2009調査の結果向上の要因を、文部科学省は「日本の教師が優秀であること」「授業改善がなされたこと」「PISA型の問題形式に慣れたこと」をあげていた。当時私は多くの教室に入り、授業を見せてもらっていたが、授業改善がそれほど大きく進んでいると感じなかった。中学校・高校においてはなおさらである。PISA2009調査の結果が向上した大きな要因は、全国学力学習状況調査B問題などで、「PISA型の問題形式に慣れたこと」だと考えている。その後、日本の優秀な教師によって徐々に授業改善が図られ、PISA2012調査の好成績つながった。

この授業改善に供したのは、学習のてびきや教師用指導書である。例えば、小学校2年生の教材「どうぶつ園のじゅうい」（光村図書）の学習のてびきは、「文章を正確に読み解く力」を土台としてPISA調査に求められる「文章を批評的に読む力」を身に付けさせ、「記述する力」を育むように構造的に作られている。指導書も同様である。このような学習のてびきや指導書によって授業の改善が図られたと考えられる。

また、文部科学省の視学官によって「単元を貫く言語活動」と銘打って、単元をパッケージ化して啓蒙されたことも影響があった。次図のように、単元は①目的となる単元終末の言語活動を見通す段階→②目的となる言語活動に必要な言語能力を教材〈で〉習得する段階→③読むことを通して身に付けた言語能力を活用して言語活動（表現活動）をする段階で構想する。こ

のプロセスのなかで思考力・判断力・表現力を育て、PISA調査にも対応しようとした。そして、この「単元を貫く言語活動」は商業雑誌や各地の研修会において全国に広められた。



3. これからの国語教育

平成27年8月20日に中教審の教育課程企画特別部会が「論点整理」を出した。これを詳細に読むと次期学習指導要領の方向性が見えてくる。

急激な変化を遂げる社会のなかで生きていく子どもには、変化に対応できる力が必要となる。このような時代に求められる資質・能力の枠組みとして、2015年3月に国立教育政策研究所は「21世紀型能力」を提案した。これは「基礎力（言語スキル、数量スキル、情報スキル）」「思考力（問題解決・発見力・創造力、論理的・批判的思考力、メタ認知・適応的学習力）」「実践力（自律的活動力、人間関係形成力、社会参画力、持続可能な未来への責任）」で構成されている。従来の知識・技能（「基礎力」）に、実社会で活用できる「思考力」「実践力」という汎用的な資質・能力を加えたものである。次期学習指導要領では、各教科の教科内容を身に付けさせるだけでなく、このような実社会で活用できる汎用的な資質・能力の育成が求められる。この汎用的な資質・能力は教科だけではなく、「総合的な学習の時間」「特別活動」「道徳教育」なども含めて、教育課程全体で育むことになる。そのため次期学習指導要領では資質・能力を関連付け、体系化を図り、教育課程の全体像を整理することが求められよう。

国語科においては、教科内容（話すこと・聞くこと・書くこと・読むことにおける知識・技能、古典を含む日本の言語文化や国語の特質に関する理解）を習得させるとともに、どの教科でも共通して育てていく思考力に着目して指導しなければならない。これまで、思考（認識）に焦点をあてた国語教育の研究は多くあるが、「西郷竹彦の認識方法の系統案」「櫻本明美の論理的思考力の全体構造図と学年別重点項目」などが参考になろう。各教材や授業展開のなかで、どのような思考力を身につけるのかを考えて国語科カリキュラムを構想する。さらに思考を促す具体的な働きかけを毎時間行っていくことが必要となろう。

国際的な学力をつけるための国語科の課題としては、以下2点にまとめられる。

☐ただ言語活動をさせるのではなく、言語活動を通してどのような思考力を身につけるのかを明らかにして指導する。

☐国語科カリキュラムに思考力を位置づけ、他教科・多領域との関連を図る。